

1. 学長トップメッセージ



山口大学は、9学部8研究科からなる学生数1万人を超える県内唯一の総合大学です。各キャンパスは、山口市と宇部市を拠点として、瀬戸内海や日本海に囲まれ、自然の緑が溢れ澄んだ空気と清らかな水に恵まれ、教育研究を育むために適した豊かな環境が魅力のひとつです。歴史的には、明治維新胎動の地として、地域資産が豊富であり長州五傑などに感銘を受ける方も多いと思われます。本学は、これらの地域的・歴史的財産を土壌として、「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」の理念の基に、教育・研究・社会貢献の3本の矢により地域の発展、日本そして世界の発展に貢献することを目指しています。

さて、全世界では、急速な経済成長や人口増加等を背景に、開発による環境破壊や大規模な公害、熱帯雨林の減少や砂漠化、生物多様性の変化、生活レベル向上による食の転換や食糧危機、エネルギー消費の増大、自然災害の拡大など、地球温暖化等に関する様々な問題が連鎖して、自然環境や社会のバランスが崩壊し大きな争いに発展する恐れが指摘されています。

そこで、国際社会全体でこれらの問題に取り組むため、国連において「持続可能な開発目標」(SDGs)と呼ばれる環境や開発等に関する17の目標が設定され、日本も含め193カ国が合意しました。

また、現代社会では、Society5.0(超スマート社会)と言われるIoTやAI、クラウド、ドローン、自動走行車や無人ロボット等の最新テクノロジーの活用により、各種の問題解決に取り組み、一人ひとりが快適に暮らせる社会を実現することが推進されています。

こうした中、本学では、スローガン「学ぼう山大 減らそうムダ 増やそう笑顔」を合い言葉に環境配慮活動を推進するとともに、環境配慮活動に関する具体的な基本方針と活動目標を「山口大学の環境目標」として定め、事業活動による環境負荷の低減、環境貢献技術の創出、地域との協調・コミュニケーション等、それぞれに詳細な活動内容を掲げて、学生・教職員・関連企業等まで活動の輪を広げていきます。

その中で、「事業活動による環境負荷の低減」については、省エネ法や温対法等の環境関連法令の遵守を重要な課題と受け止め、エネルギー消費量や温室効果ガス排出量を前年度比で1%以上の低減と中期目標による5年間平均原単位1%以上の削減に努めていきます。

また、「環境貢献技術の創出」については、教育面において山口大学の置かれている社会・地域環境の現状を理解し、幅広く学習することで地球温暖化防止にチャレンジする人材の育成を推進します。研究面では、地球温暖化に対する緩和策としての省資源・省エネ対策・再生可能エネルギー技術の創造、エコ社会体制の提案、人間と生物の共生などの専門分野において環境負荷低減手段の開発、気候変動による自然災害への適応性(防災・水資源・食・健康の脆弱性改善)、環境保全、生物多様性の保全、生物資源の持続可能な利用等、最先端の研究成果を生み出す体制を推進します。

さらに、「地域との協調・コミュニケーション」では、地方創生を推進するカリキュラムを導入し、自治体や地域産業との結びつきを強固にすることで地域に求められる大学として発展していきます。

山口大学の環境配慮活動は、SDGsに連動するSociety5.0の推進による「地方創生」と「強靱かつ環境に優しいまちづくり」や「次世代の担い手育成」等を意識して、学生・教職員が自ら地球温暖化防止に関心を持ち、組織全体で目標の達成を目指し継続的な改善に取り組むことで、地域の皆様と共に歩んでいきたいと思っております。

山口大学長 岡 正朗